

國文學研究資料
國文學研究書目
索引・總目錄

校註

日本文學大系

第廿卷

昭和三年六月十二日印刷
昭和三年六月十五日發行

(非賣品)

日本文學大系

第二十五卷

編輯者兼
發行者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

國民圖書株式會社

右代表者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

中塚榮次郎

印刷者

東京市本所區番場町四番地

井上源之丞

印刷所

東京市本所區番場町四番地

凸版印刷株式會社本所分工場

發行所

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
國民圖書株式會社

電話銀座二一八三番
振替東京三六八六番
五二二九八番

例言

一、本卷には、國文學研究資料、國文學研究書目、和歌索引、本文索引、總目錄等を収めました。

一、國文學研究資料及び國文學研究書目は、日本文學大系編輯部に於て纂輯しました。前者は會員の質疑に應答したもので、必要の研究題目と思はるゝもの若干項を、これに擬して補充しました。

一、和歌索引及び本文索引は中山泰昌が擔任しました。本文索引は、所要の紙幅を十分に取るこゝとが出来なかつた爲に、甚だ不満足のものとなりました。

一、右各項には、それ々の初頭に目次を附しました。

一、大系第三卷の土佐日記、枕草紙及び方丈記は、同卷擔任者山岸徳平の再考訂により、第二版本にはこれが訂正を加へましたから、卷末に第一版本限りの再訂表を載せました。その他の正誤表は第一二版共通であります。

昭和三年五月

校註

日本文學大系 第二十五卷目次

國文學研究資料

一—三六〇

國文學研究書目

三六一—四二三

和歌索引

四二五—四九四

本文索引

四九五—七〇六

總目錄

七〇七—七六五

正誤表

七六七—七七五

第一版再訂表

七六六—七八〇

目次終

目次

國文學研究資料
(擬質疑應答)

國文學研究資料目次

古事記(第一卷)

- (一) 高天原の所在に就いて……………二
(二) 火遠理命の話と浦島の傳説……………二七

祝詞(第一卷)

- (三) 祝詞に現はれたる罪に就いて……………三三

宣命(第一卷)

- (四) 宣命には外國思想が混入しては居ないか……………三九

竹取物語(第二卷)

- (五) 漢字の點畫を省いて假名を作つた事に就いて……………四五

- (六) 地名の解釋……………六六

- (七) 浦島子の物語と夢野の物語……………七九

- (八) 「裳着す」はモギスかモキスか……………四〇

國文學研究資料目次

伊勢物語(第二卷)

- (九) 在原業平は何故に勸王忠愛の士か……………四一
(一〇) 「昔男ありけり」の「けり」は詠嘆の助動詞なりや時のそれなりや……………四四

- (一一) 古來文學に現はれたる鬼に就いて……………五五

天和物語(第二卷)

- (一二) 歌「里はいふ」「朝ぼらけ」二首の解釋……………五八

- (一三) 齋院の女御……………五九

濱松中納言物語(第二卷)

- (一四) 蓬萊洞の月……………六四

- (一五) 上陽宮にながめたる女とは誰か……………六五

- (一六) 「みつばよつばの殿づくりして」の解釋……………六六

無名草子(第二卷)

(七)	阿祿山とは如何なる人物か……………	七
	とりかへばや物語(第二卷)	
(六)	「これはさや」の歌に間違はないか……………	六
(五)	鹽焼く烟になるとは何の意味か……………	六
(四)	「たましひはこの人の袖のうちに入りぬる心地云々」に故事はないか……………	六
(三)	「宰相の君」以下の解釋……………	七〇
(三)	逢ひても逢はぬ戀の意味……………	七一
(三)	「まつのおもはむ事」の解釋……………	七一
	堤中納言物語(第二卷)	
(三)	冒頭の一節の解釋……………	七一
(三)	「みつとを」とは如何なる人物か……………	七三
(三)	「逢坂越えぬ權中納言」の一節の解釋……………	七四
(三)	「かひあはせ」の一節の解釋……………	七五
(三)	人を花にたとへたに就いて引歌はないか……………	七六
(三)	「誰そまやまを」には引歌はないか……………	七六

(三)	土佐日記(第三卷)	
(三)	宇多の松原に就いて……………	七
(三)	蜻蛉日記(第三卷)	
(三)	道綱の母と儀同三司の母は別人ではないか(解題)……………	八〇
(三)	一生の大事を定むるに他人に返事をなさしむのは不合理でないか……………	八〇
	紫式部日記(第三卷)	
(三)	「菊の綿」「老ひ拭ひ捨て」「老いもしぞきぬ」の解釋……………	八三
	和泉式部日記(第三卷)	
(三)	歌「山を出でて」の解釋……………	八六
	更級日記(第三卷)	
(三)	「あづまぢの道のはて」の意味……………	八六
(三)	「田芹を摘む」に故事はないか……………	八七
	東關紀行(第三卷)	

(七) 「尾張の國熱田の宮に至りぬ」以下の解

釋……………六八

(六) 最後の一節の解釋……………九〇

十六夜日記(第三卷)

(元) 阿佛の旅程に就いて……………九二

清少納言枕の草紙(第三卷)

(四〇) 夾算……………九三

(四二) 「鼻をいと高うひたれば」の解釋……………九三

(四三) 八十三段の一節の解釋……………九四

(四四) 庚申……………九七

(四四) てうばみ……………九六

方丈記(第三卷)

(四四) 牛車に就いて……………一〇〇

徒然草(第三卷)

(四六) 「能をつかむとする人」は「能をつけむと

する人」ではないか……………一〇三

(四七) 醫師いしやの讀方について……………一〇三

(四八) 「少しき」の文法的説明……………一〇五

落窪物語(第五卷)

(四九) 餌袋とはどんなものか……………一〇六

(五〇) 「降るとも」の出所……………一〇七

(五一) 「門させり」の解釋……………一〇七

(五二) 交野の少將とはどんな人物か……………一〇八

(五三) 「聲ばかりこそ」の出典……………一〇八

(五四) 「三千年になるてふ桃の花さけり」の故

事……………一〇九

(五五) 「身をわけて」の歌の意味……………一〇九

狭衣(第五卷)

(五六) 井出とは何地か……………一一〇

(五七) 「よし」かたは人名か……………一一一

(五八) 「衣の關を恨み侘ぶれど」に引歌はないか……………一一三

(五九) 羊の歩みの出所……………一一三

(六)	湯の意味……………	二三	(七四)	「ゆかりまで」の本歌……………	三三
(六)	「げに凄まじきものにいひおきたる師走の月も」とは誰の言葉か……………	二三	(七五)	忘れ草とはどんな植物か……………	三四
(六)	「當來世々の轉法輪のえん」の意味……………	二四	(七六)	「水鳥のつがひ、うは毛の霜うち拂ふ」の意味……………	三五
(六)	唐泊とはどこか……………	二五	源氏物語(第六卷)		
(六)	「天地を袋に縫ひて」の解釋……………	二六	(七)	「紅葉賀」卷頭の解釋……………	三五
(六)	「紅の神を引合ひに出した理由」……………	二六	宇治拾遺物語(第十卷)		
(六)	「柏木の」の歌の解釋……………	二七	(七)	「されどもさのみぞさぶらふ」の解釋……………	三九
(六)	「見えぬ山路」の解について……………	二八	(七)	「高忠の侍うたよむ事」の條に誤漏はないか……………	三〇
(六)	「さまではなでふいさめ侍らむ」の意味……………	二九	古今著聞集(第十卷)		
(六)	「御前にも見るを逢ふにて云々」の意味……………	二九	(八)	卷第五「管絃のよくしみる時」以下の解釋……………	三一
(六)	「水の白波なる御有様」の意味……………	三〇	(八)	「すきもの」の意味……………	三三
(六)	「さきの世より結ぶの神云々」以下の文意……………	三二	水鏡(第十二卷)		
住吉物語(第五卷)			(八)	「いかるがの宮の所在地と由緒」……………	三四
(七)	「引き結び遣り給へば」の意味……………	三三			
(七)	「世とともに」の歌の「したの思ひ」の意味……………	三三			

(八三) 法興寺と元興寺……………一五

今 鏡(第十二卷)

(八四) 帥殿とは誰か……………一六

増 鏡(第十二卷)

(八五) 「久米のさら山」の一節の解釋……………一六

(八六) 「賜はらせて」と「賜はさせて」……………一七

(八七) 御祓、大嘗會、主基がたの御屏風……………一七

保元物語(第十四卷)

(八八) 傳に就いて……………一八

平治物語(第十四卷)

(八九) 「日月は未だ地に落ち給はぬものを」とは如何なる事か……………一八

源平盛衰記(第十五卷)

(九〇) 和田義盛を三浦和田小太郎義盛といひ、源範頼を蒲冠者といふわけ……………一九

(九一) 大手、搦手の解釋……………一九

(九二) ………………一九

國文學研究資料目次

(九三) 御裳濯河に就いて……………二〇

太平記(第十七卷)

(九四) 正しき姓は楠か楠木か……………二一

(九五) 楠公夫人の素姓……………二一

(九六) 道行ぶりに就いて……………二二

(九七) 楠公父子櫻井の訣別と獅子の故事……………二二

(九八) 陰陽家の使役する鬼神……………二六

(九九) 高德の故事に對する疑義……………二七

(一〇〇) 浦の濱木綿はどんな植物か……………二七

(一〇一) 義貞稻村崎に佩刀を沉めた故事……………二七

(一〇二) 傳奏の役目……………二八

(一〇三) 如意輪堂の過去帳……………二八

吉野拾遺(第十八卷)

(一〇四) 「さらに人ごゝちなかりければ」とは誰の事か……………二九

(一〇五) 「こゝに三年がほど」のこゝとは何處か……………二九

國文學研究資料目次

(一〇五)	「知る」が「領する」意味となる所以……………	一七六
(一〇六)	「恥ある一矢」の解釋……………	一七七
(一〇七)	「まさな」との解釋……………	一七八
(一〇八)	係り結び「こそ……けれ」の例外二つ……………	一七八
(一〇九)	「こそ」の結びについて……………	一八〇
神皇正統記(第十八卷)		
(一一〇)	「代」と「世」とはどう違ふか……………	一八〇
(一一一)	「大方泰時」以下の解釋……………	一八三
(一一二)	「神は人を」以下の解釋……………	一八五
(一一三)	「およそ王土に」以下の解釋……………	一八四
(一一四)	「言語は君子の」以下の解釋……………	一八五
(一一五)	續神皇正統記の内容と著者……………	一八六
謠曲(第二十卷)		
(一一六)	羽衣の基礎となれる傳説に就いて……………	一八七

狂言記(第二十二卷)

(一二七)	萩大名の「歸脛ばかり伸び居つて、厚く折檻なされまする」の解釋……………	一九四
(一二八)	竹子争中の諸語の解釋……………	一九四
(一二九)	鱸庵丁中の諸語の解釋……………	一九五
(一三〇)	平安朝時代の漢文學に就いて……………	一九七
(一三一)	物の怪、方違、物忌……………	二〇三
(一三二)	公卿、殿上人、上達部、地下……………	二〇四
(一三三)	賀茂の祭……………	二〇三
(一三四)	殿舎……………	二〇五
(一三五)	官職の一斑に就いて……………	二〇九
(一三六)	武器、甲冑、装束の名どころ……………	二一三

插繪目次

第一圖	四手	八九
第二圖	夾算	九三
第三圖	雙六の圖	九六
第四圖	牛車	一〇一
第五圖	文書	一三三
第六圖	青海波の圖	一三七
第七圖	明治大嘗宮の模型	一四三
第八圖	明治大嘗宮の一部	一四三
第九圖	明治大嘗宮全圖	一四四
第十圖	天一神遊行圖	一四八
第十一圖	太白山遊行圖	一五〇
第十二圖	殿上内の圖	一五七
第十三圖	賀茂の葵祭の行列	一五九

插繪目次

第十四圖	賀茂の祭競馬の圖	一六八
第十五圖	宮門	一四二
第十六圖	清涼殿の圖	一四三
第十七圖	紫宸殿	一四四
第十八圖	賢聖の間	一四五
第十九圖	諸葛亮、大公望	一四七
第二十圖	御張臺	一四八
第二十一圖	荒海の障子	一五三
第二十二圖	桓武天皇大極殿	一五四
第二十三圖	大極殿の圖	一五五
第二十四圖	寢殿造の圖	一五六
第二十五圖	泉殿の造	一五六
第二十六圖	寢殿の圖	一五七

挿繪目次

一〇

第二十七圖	室内の圖	二七三
第二十八圖	格子妻戸の圖	二七三
第二十九圖	立部の圖	二七五
第三十圖	四脚門	二八一
第三十一圖	中門	二八三
第三十二圖	棟門	二八三
第三十三圖	上土門	二八三

第三十四圖	切懸の圖	二八四
第三十五圖	武器の名どころ	二八四
第三十六圖	甲冑の名どころ	二八五
第三十七圖	裝束の名どころ (一)	二八六
第三十八圖	裝束の名どころ (二)	二八七
第三十九圖	馬具の名どころ	二八六

國文學研究資料

(二) 高天原の所在に就いて

〔問〕 高天原の所在に就いて古人の説を承りたし。(古事記)

本居宣長翁曰く、「高天原はすなはち天なり。然るを天皇の京をいふなど云へる説は、いみじく古傳にそむける奇靈しきを疑ひて、虚空の上に高天、かくてたゞ天と云ふと高天、原と云ふとの差別は如何ぞと云ふに、原ある事を信ぜざるはいと愚かなり。まづ天は天神の坐します御國なるが故に、山川草木のたぐひ、宮殿その外萬の物も事も全く御孫命の所知看此御國土の如くにして、なほすぐれたる處にしなければ……大方のありさまも神達の御上の萬の事も、此の國土に有る事の如くになむあるを……高天、原としも云ふは、其の天にして有るを語るとき

の稱なり。然るを萬葉の歌などに、天の原ふりさけみればとよめるなどは、やゝ後の事なるべし。如此さまにたい打見たるのみの天などを天の原とも云へるが如きは、神代の御典などには見えぬことなり。さて然稱ふ由は、高とは是れも天を云ふ稱にて、たゞに高き意に云へるとはいさゝか異なり。然れば此言な。日の枕詞に高光と云ふも、天照と同じ意。高御座も天の御座といふ事にて、これ等の高も同じ。又高行や隼別などは、虚空を高と云へるなり。此れも高く行くと云ふには非ず。抑天と虚空とは別なれば、此の國土よりは、天をそらとも、虚空を天とも通はし云ふも常にて、天つそらなども云へり。されば高と云ふも天と虚空とを通はしたる名なり。共に高き方にあればなり。今の世にも天つ虚空を然言

ふ事あり。……原とは廣く平らなる處を云ふ……か、れば天をも天の原とは云ふなり。……さて其れ

に高てふ言を添へて高天原とは此の國土より云ふことなり。凡て天を高とも云ふは、高きを以て云ふ稱なればなり。されば天照太

御神の天の石屋に隠りませる處の御言、又書紀の須佐之男命の天に上り坐す時、又御誓の處の天照太

御神の御言などには、皆たゞ天原とある。其は天にして詔ふ御言なるが故なり。……これらの餘、此

の國土より云へるところになむ高天原とはあり。凡て古文はかゝることのいと正しきなり。(古事記傳)

と。その天上説は、釋日本紀の師説、又一條兼良の纂疏の説なども皆同様で、この説は最も古く、古

史を文詞のまゝに解釋すれば正にかうであらう。併しこの論は、歴史と神話を混同したもので、學説

としてはさしたる價值もなからう。次は稍進んで、宗教神話と史的事實とを區別して、高天原は日本

國內にあるとの論で、これが自ら三つに分れる。その一つは、高天原は大和にあるとの説で、

山崎闇齋は曰く、「高天原は天上の皇居を謂ふなり。大和國高市郡是れなり。」(風水草管窺)

谷重遠は大己貴神の「吾欲住於日本國之三諸山」といへるを解して、「日本國は即ち今の和國なり

……當時天照太神大和國高市に都したまふゆゑに、言必ず此に存す。其の心に王室を忘れざる意切

るなり。」(神代卷顯土傳)

吉見幸和門人栗峯隆は師説を承述して、「高天原は地名にして、大和國高市郡にあり。後世伽藍を建

て、高天寺と號す、是れ地名を以て稱する所なり。蓋し上古伊弉諾伊弉冊尊、八洲を經營して王畿を

定め、皇居を高市郡に建つ。天照太神肇めて新に即位し給ふ。故に蒼天に比して天上と謂ひ、其の地